

災害用自家発電 設置 8 割超え 管内酪農家で前年より61戸増 20年度統計

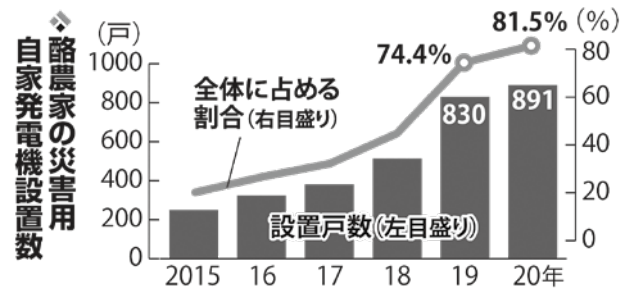
2021年4月10日

十勝農協連（山本勝博会長）は、2020年の「十勝畜産統計」をまとめた。管内酪農家の災害時に備えた自家発電機の導入では、設置農家が891戸となり前年から61戸増加した。生乳出荷戸数に占める設置農家の割合も81.5%で7.1ポイント増加するなど、緊急時対応が進んでいる。

◆5 J Aで全戸導入

24 J A別でみると、自家発電機の設置割合が70%を超えたのは20 J A（19年は17 J A）。全戸で設置しているのは19年はひろおのみだったが、20年は5 J A（ひろお、帯広大正、さらべつ、めむろ、木野）に拡大した。

生乳出荷戸数が最も多い J A 十勝清水町は、104戸中87戸が設置。前回から最も増加したのは J A 陸別町で、90.2%（41戸のうち37戸）が設置し、46.7ポイント上昇した。



◆背景に災害の教訓

自家発電機の導入が進む背景には、過去の災害の教訓がある。16年は台風被害を受けたほか、18年には胆振東部地震に伴いブラックアウト（大規模停電）が発生、搾乳機械が停止し大きな損失が生じた。

15年時点で20.2%だった設置割合は、17年に32.2%、19年に74.4%と増加。 J A 関係者は「ブラックアウト後は国の補助事業もあり導入が伸びた」とする。牛舎を新設する際に搾乳ロボと一緒に設置する例も多い。

管内の20年の生乳出荷戸数は1,093戸。統計は毎年12月時点で集計している。



災害を契機に管内酪農家で導入が進む自家発電機

畜産業 増える労災 昨年の管内54件 過去5年で最多 教育の徹底カギ 目立つ経験5年未満

2021年4月17日

十勝管内の畜産業で、労働災害が増加している。帯広労働基準監督署によると2020年は管内で54件の労災が発生、前年から14件増えた。ここ5年で最も多い。経験年数が5年未満の従業者が引き起こす事故が多く、帯広労基署では注意と指導の徹底を促している。

◆踏まれたり転倒

「畜産業」は乳牛、肉牛、豚、鶏、馬関係の事故を含む。労働災害54件のうち、最も多かったのが家畜に足を踏まれるなどの「はさまれ・巻き込まれ」で17件（前年同）、次に「転倒」で11件（1件増）だった。転倒は足元がぬれている牛舎内の清掃時などで足を滑らせる事故があった。

このほか、家畜による「激突」が9件（1件増）、「墜落・転落」が6件（4件増）など。墜落・転落では畜舎の床面の汚物を流す「ピット」の扉を閉め忘れて落下した事例があった。

